



我まさしく生きるの道は、一切の因縁を切ると同時に生かすにある。(ご聖訓第七巻 48頁)

仲介者養成コース

コロナ禍に負けず仲介者の学びを深める

5月29日、仲介者養成コースが1日の研修の形で御霊地・研修センターにて開催され、35名が参加した。



緊急事態宣言の中、今回は「御五法修業に感染症予防を取り入れた実修方法を学ぶ」「支部において修法シートに基づいた仲介を行うと共に、支部に貢献できる人になる」を研修テーマに行われた。また、新型コロナウイルス感染症対策が万全にされた。

午前10時に開講。はじめに大賀光夫修法部長の開講挨拶に続いて、岩田始次長が修法シートを用いて「第一章実修の基礎編」をテーマに講義を行い、参加者は仲介者としての基本を学んだ。

その後、9班に分かれ、途中、昼食を挟み実修となり、班担当者に日頃の仲介の悩みを相談したり、研修生同士で語り合う姿も見られた。

最後に、田村和彦常任理事よりまとめとして「金剛さまは、闇夜を照らす提灯持ちになれとお諭し下さっている。仲介者は修業者の半歩先を照らせるようになることが大事」と仲介者のあり方を伝え、16時閉講となった。

今回は事前にPCR検査を受けて参加した沖縄の会員や教区の研修が中止に

なったことから声を掛け合って大人数で参加した教区など、コロナ禍に負けない熱気のある研修となった。

参加者からは「仲介は難しかったが、少しずつ前進していく気になった」「御五法修業は手だけではなく、顔の表情などにもお示しがあることに気がつくことができた」「色々な方の仲介の仕方を見させていただき、担当の先生の学び一つひとつが勉強になった」「まだまだ勉強不足だが、一回一回の仲介の勉強が大切と感じた」との声があがった。

黒姫出張所・御守護神祭

健康と作業の無事を祈る



5月20日、長野県信濃町の黒姫出張所にて、第51回黒姫弁財天及び第49回天國蔵五柱五成の春季例祭が岡野英夫理事はじめ本部役員のみで行われた。

式典では、厳かに出張所職員をはじめ耕作者組合の方々が健康で天茶生産に取り組めるよう神々へ祈りを捧げられた。

残雪を被った黒姫山の麓に広がる天茶畑では、女性職員によりこれから新しく天茶の芽が出てくるための準備が進められ、美しく整えられていた。ある職員は「秋には皆さんに喜んでいただける天茶が収穫できるに違いない」と話していた。

修法担当員研修

仲介者育成のために心得を学ぶ



6月12日、本部主催の教区修法担当員研修が四ツ谷・本部道場にて行われた。

新型コロナウイルス感染症対策として、今回は、東京圏を対象に、16名の修法担当員が参加した。

午前10時開講。拝礼行事、み声拝聴、お浄めと進み、武井達郎布教部長の開講挨拶。続いて、大賀光夫修法部長より「修法担当員の役目」について講義が行われた。その後、事前に指名を受けた2名の教区修法担当員による、「御五法修業の心得」「仲介者の心得」をテーマに模擬講義が行われた。

昼食後、岩田始修法部次長より「御五法修業仲介の手順」について講義が行われ、参加者は改めて仲介の手順を確認した。続いて、4班に分かれ、御五法修業の実修を行い、トレーナーの役目と実修の進め方を学んだ。

最後に、田村和彦常任理事より閉講挨拶があり、終礼行事、会員各家の先祖供養、世界人類怨親平等供養が行われ、閉講となった。

参加者は、各支部での仲介者の育成を図ると共に自身の更なる向上を目指すために意識を高めた。

御寺泉涌寺・結縁法要

例年6月4日、御寺泉涌寺が本会護持会員のために営んでくださる結縁法要は、昨年から続くコロナ禍の影響と、3回目の緊急事態宣言によって、昨年に引き続き本年も延期となった。昨年と本年の表彰者には、泉涌寺より感謝状と記念品が授与される。



本会護持会員のための御法要の様子 (2014年・霊明殿)

御寺泉涌寺護持会員の申込について

- 趣旨：解脱金剛尊者のご遺志に則り、泉山護持会員を募り、その会費を御寺泉涌寺に献納して泉山護持の精神を具現化するもの。
- 護持会費：年額10万円又は5万円（一括納入）
- 納入方法：入会時は会員申込書に会費を添え、支部を通して納入ください。次年度からは本部より納付書を送付いたします。
- 献納時期：11月 御年祭時
- 篤志奉納者：継続会員でなく、希望により任意に納める方のこと。随時受け付けております。金額は10万円又は5万円（一括納入）。
※ 詳細は本部・総務部（03-3353-2191）までご連絡ください。

令和2・3年 護持会 結縁者

櫻井 雄二 (日本橋中央)	小椋 一衛 (滋賀蛸谷)
糸川 昭子 (勝鬨)	河合 久美 (京都洛東)
大石 邦雄 (御徒町)	弘中 和芳 (下関井田)
玉置 博子 (伊吹山東)	中川 逸夫 (下関井田)
本庄 秀次 (伊吹山東)	辻本 敦 (下関井田)
横山 高信 (福井加茂河原)	日野 善明 (下関井田)
三屋 真一 (勝山旭)	

令和2・3年 護持会 表彰者

増田 勝範 (福島伊達)	嶋田 清和 (台東)
伊藤 一郎 (福島二本松)	秋葉 澄恵 (六月)
伊豫田丈夫 (宮城小牛田)	上原 功 (御徒町)
佐野 保貞 (釜石大町)	白井 正男 (横浜日吉)
西村 重夫 (新潟中条)	鈴木 知 (静岡袋井)
竹淵 栄治 (群馬名久田)	鈴木 和美 (静岡袋井)
篠原 勇 (群馬名久田)	名古屋太閤通支部
福島 道子 (大宮土呂)	富田 時宗 (名古屋鳴海)
山下 龍治 (野田中野台)	富田 早苗 (名古屋鳴海)
神田 陽子 (長野鶴賀田)	吉田 正裕 (名古屋堀田)
宮坂 平八 (松本里山辺)	水谷 健吾 (名古屋豊国)
林原 俊介 (松本里山辺)	本多 幾男 (福井加茂河原)
岡瀬賢次郎 (茨城小田)	酒井 靖子 (福井加茂河原)
倉橋源四郎 (牛込)	村田 幸夫 (滋賀守山)
花輪 華子 (日野台)	齋藤 安彦 (大阪玉造)
須藤 正 (あきる野)	内田 治義 (出雲新町)
関 僚子 (大森八幡)	藤原 了 (香川多度津)
伊藤 光男 (大岡山)	重森 政義 (愛媛四国中央)
武前 桂三 (台東)	瑞慶山良哲 (沖縄うるま)

滋賀教区・第55回琵琶湖感謝供養祭

琵琶湖へ真心の感謝捧ぐ

滋賀教区では、今年で55回目の琵琶湖感謝供養祭を5月23日に開催し、各支部より総勢80名の会員が集った。

当日は、去年に引き続きコロナ禍の影響がある中、感染予防対策をとりながら参加者は天茶を持ち寄り、臨時便の船で彦根港を出港。まず船中にて、青年部の司会の下、日頃より琵琶湖を通じて多大

な恩恵を頂いている御礼と有縁無縁萬靈に対して感謝の意を捧げるために天茶供養を厳修、参加者全員で特別に設けられた祭壇の供養塔での感謝の供養と各支部代表による湖中への撒き供養を行った。

太田豊地教区長は、琵琶湖の恩恵と水へ感謝の心を向ける大切さを述べた。

その後、竹生島に上陸した参加者は弁



財天を参拝した。

コロナ禍であったが、滋賀教区の重要な行事の一つである当供養祭を、青年部、女性部、長浜神前支部の協力の下、無事開催できたことを参加者は喜び合った。

滋賀教区・健康指導研修会

健康指導を広めよう

滋賀教区では健康指導研修会を、4月11日に長浜神前支部において開催、本部より堀川剛史指導員が出講し、教区役員、教区や支部の健康指導担当など総勢22名が参加した。当研修会は、支部毎に健康指導を学ぶ人材を育成し、支部から家庭、地域へ健康指導を伝えながら金剛さまのご精神を広めていくことを目的としている。昨年は密を避けて教区内支部での開催は避けていたが、今回、非常事態

宣言が解除されたこともあり長浜神前支部長が会場の提供を了承、1年ぶりに教区内支部での開催となった。

この日の研修会では、昨年より学んできた免疫力アップおよび自療法をテーマに、今回は、コロナ禍の家庭で実践できる方法を中心に研鑽した。

午前10時より拝礼行事、太田豊地教区長が挨拶を述べた後、堀川指導員による講義と実習。堀川指導員は午前と午後それぞれ約2時間ずつ講義し、呼吸法や自療法の実習を行うと共に、感謝の心で日々を過ごすなど心の持ち方の大切さを述べた。最後の質疑応答では、コロナ

禍を乗り越えるためにも健康指導を多くの人に伝え、共々に生命を敬い合って生活することを訴え、参加者は、9月に予定の次の研修会では更に学びを深め合えるよう、お互いに実践することを誓い合った。



東京第4教区・第52回 洗足池弁財天例大祭

家庭・支部の活力を高めよう

5月23日、晴天に恵まれる中、第52回洗足池弁財天例大祭が午後1時より東京第4教区の奉賛により開催した。

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現地での参加者を限定して教区役員と各支部代表者が集い、行事は縮小した形で執り行われた。祭礼は千束八

幡神社・恵良彰紀宮司祭主のもと、奉斎の儀で各支部代表が玉串を奉奠。拝礼行事の後、恵良宮司から丁重な祝辞を賜り、宮崎達郎教区長が謝意を述べ、一同、洗足池弁財天に感謝の誠を捧げ、更なる精進を誓った。

また、今回は初の試みとして祭礼の様



様をYouTubeでライブ配信し、現地参加が叶わなかった多くの会員が画面を通して参加した。

福岡平和準支部が蒙古塚で供養

靈魂の冥福を心より祈る

福岡平和準支部では4月21日、福岡県福岡市志賀島に建立されている「蒙古塚」において、会員16名が日蒙両軍の兵士および住民の犠牲者の冥福を祈り天茶の撒き供養を行った。

「蒙古塚」は、鎌倉時代中期にモンゴル民族が日本侵攻のために福岡県博多に上陸した2度の元寇「文永の役(1274年)・

弘安の役(1281年)」で戦死した蒙古兵士を供養するために、昭和2年に建立された石碑。石碑の文字は、当時の総理大臣・田中義一の揮毫によるもの。2度の元寇により数万の死者があったと伝えられている。

福岡平和準支部では支部設立当時、毎月1回、会員共々供養を行っていた。現



在では自主感謝会に合わせて毎年1回、除草をするなど塔周辺をきれいに整えた後、蒙古軍犠牲者等の冥福を心から祈り天茶の撒き供養を行っている。

解脱金剛奉賛会 創立50年企画 奉賛会体験

姑の意志を継げた喜び

小田原城山支部 一寸木 克枝



わが家では、最初に姑と主人が奉賛会に入会していました。姑が病気になる支部へ通えなくなった時、前支部長より「これからはお姑さんに代わり、あなたの名前で続けなさい」と言われ、それからは主人と2人で30年以上、続けています。

今回、教区よりこの原稿を頼まれた時、支部長や周りから「夫婦で入会していて凄い徳積みだよ」と言っていたが、初めて今までを振り返ることができました。

奉賛会に入会した当時、私は20代、何も分からずに会費を納めるだけでした。その後、試練が重なり、主人は経営する会社

をたたみ、借金を抱えてどうやって生活をしていこうかと悩んでいた時でも奉賛会退会の考えは浮かばず、しかも不思議なことに毎月、会費を納めることができました。

「困った時でも会費が納められたことが不思議なんです」としか、奉賛会については言えなかったのですが、金剛さまがこの世に存在しなかったら私はどんな人生だったのか、と考えた時、法縁に触れた感謝しかありません。元気で幸せな生活が送れることは、当たり前ではなく有り難いことだと実感しています。

この原稿を書くことが決まってからの2ヵ月、家の中や自分の周りで今までに無い動きがあり不思議でしたが、きっと姑が喜んでい姿なのだと思います。

私は何もできない嫁で、お姑さんにはたくさん迷惑をかけていました。姑が病気になる時、一生懸命に看病をして、嫁いで以来の10年間、お世話になった恩返しをしようと思っていた矢先、発病してわずか10ヵ月で亡くなり、満足にお世話できなかったことがずっと悔やまれていました。

でも、今回一つ気づいたことがあります。真意は分かりませんが、姑は解脱を学んで幸せとなった恩返しに奉賛会へ入会したと思います。その意志を私が継いだことを姑は喜んでくれていると思い、姑の意志を継いでいると思うことが私は嬉しいです。気づく機会を頂けたことを有り難く思います。

法縁を頂いたことに金剛さまへ感謝を込めてこれからも奉賛会を続けると共に、金剛さま、ご先祖様に喜んでいただける自分になるよう精進いたします。

本部宛 連絡用メールアドレスのご案内

土曜・日曜・祝日など本部休館日や夜間など連絡がとれない場合などにご利用ください。翌営業日に対応いたします。

- 天茶のご注文や事業部商品に関するお問い合わせ : soumubu@gedatsu.or.jp (総務部)
 - 供養札の謹製、萬部供養などに関するお問い合わせ : chousatsubu@gedatsu.or.jp (調札部)
 - 御霊地施設に関するお問い合わせ : kanribu@gedatsu.or.jp (御霊地管理部)
- ※メールアプリの起動とアドレス入力が1クリックでできる解脱会ホームページもご利用ください。



第56回 8.14式典(戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典)



新宗連青年会が主催する8.14式典とは、全世界で5000万～8000万人、日本だけでも300万人以上が犠牲になったと言われている先の大戦をはじめ、すべての戦争で犠牲となられた方々の慰霊を、敵味方、国や宗教を超えて行い、平和を祈念し、「絶対非戦」を誓う行事です。

- 日時：8月14日(土)18時開式
- 会場：国立・千鳥ヶ淵戦没者墓苑
※新型コロナウイルス感染防止のため、一般の方の会場へのご参列は原則ご遠慮いただきます。

YouTubeライブ配信(予定)のご案内

ライブ配信の視聴方法は、新宗連のホームページにて最新の情報をご確認ください。



<http://www.shinshuren.or.jp/>

□折り鶴の奉納について

今日の平和と繁栄が国の礎となられた尊い犠牲のうえに築かれたことを忘れず、真心の感謝・慰霊・供養の心を折り鶴に込めてお捧げいたします。ご協力をよろしくお願いいたします。

□折り鶴発送について

千羽を束ねて短冊を付け、折り鶴奉納支部記入用紙を同封の上、8月6日(金)までに下記へお送りください。

〒160-0007 東京都新宿区荒木町4番地 解脱会青年本部 ☎03-3353-3707

※ 詳細は、本部通信3/1「解発2107号」または6/1「解発2125号」を参照



第18回 実践作文コンクール

新型コロナウイルスの影響が続いておりますので、昨年と同様に教区選抜はせず、直接本部へご応募ください。

■開催目的

- 本年度の実践目標「家族の時間を大切にしましょう」の推進
- 先祖との繋がりや家族の大切さを感じてもらう

■テーマ

「家族の好きなところ」

※ 作文のタイトルは自由です。

■対象

本会会員子弟(小学生)

■応募要項

400字詰め原稿用紙3枚以内でお書きください。

※ 応募用紙に必要事項をご記入の上、作品に添付してお送りください。

■締め切り

9月30日(木) 解脱会本部必着

■表彰式

11月28日(日)

※ 第141回「解脱金剛御生誕祭」にて行います。

■応募先

〒160-0007 東京都新宿区荒木町4番地
解脱会布教部「実践作文コンクール」係

■詳細は、支部にお尋ねください。または解脱会ホームページをご覧ください。



8月度研修 青年コース in 関西

み教えの次世代継承に向けて、青年コースを開催いたします。コロナ禍のため開催内容が例年と異なりますので、よくご確認の上、お申し込みください。



■開催期間：8月6日(金)～9日(月・振替休日)

■会場：解脱会関西道場

■対象：満16歳(高校1年生)～満24歳の青年

■定員：25名

宿泊は10名迄とし、それ以外は通いとなります。

■研修費：8,000円(当日集金)

朝食と夕食は原則、各自手配となります。

宿泊の方は研修費以外1泊1,100円が必要となります。

■申込方法：支部へ送付されている「参加申込書」に必要事項を記入し、教育部研修係までお送りください。

■申込締切：7月9日(金)

■問い合わせ先：解脱会教育部研修係

〒160-0007 東京都新宿区荒木町4番地

TEL：03-3353-3667(教育部直通)

FAX：03-3353-3708(教務局共通)

※ 詳細は、本部通信6/1「解発2123号」を参照